

地域包括ケアの拠点を担う 通所リハの機能と実践

- 564-570 **1** 改めて期待される通所リハビリテーション機能
●岡野英樹
- 572-576 **2** リハビリテーションマネジメントの効果的・効率的実践
●仁科康彦, 他
- 577-581 **3** リハビリテーション会議の意味と運営
●小川 彰
- 582-586 **4** 短時間型通所リハビリテーションの運営と効果的実践
●澤潟昌樹
- 587-591 **5** 様態別プログラムの適切な提供手法とは
●染谷和久
- 592-596 **6** リハビリテーションプログラムのあり方と手法
●二木理恵
- 597-604 **7** デイケアにおける修了を考える
●荒尾雅文, 他



少子高齢化の流れから社会保障費の高騰に歯止めをかけるため、国は一億総活躍社会の実現を銘打って、子どもから高齢者まで万人が活躍できる社会を目指そうとし、それと関連して地域包括ケアシステムのポンチ絵である植木鉢図も介護予防が土壌に含まれる考え方に再整理されました。この異次元とも言われる超高齢社会の中、対策の一つとして介護保険サービスは報酬改定のタイミングを機に効率化と重点化が図られました。

とりわけ通所リハビリテーション（以下、通所リハ）は、平成27年度にリハマネジメントの再構築や生活行為向上リハに代表される革新的な改定が行われ、1年以上が経過した現在でも現場は混乱し、実践に踏み切れない事業所も多くあります。

今回の特集は、その通所リハの現場で効果的かつ効率的にサービスを提供するための一助になるよう、全国の実践事例から具体的な方法論を報告していただきました。

企画担当 ●岡野英樹（医療法人真正会コミュニティケア部，理学療法士）